



熊本市 感染症発生動向調査 速報



伝染性紅斑は4～6年ごとに流行する傾向があり、前は2015年に流行しています。

●伝染性紅斑

ヒトパルボウイルスB19というウイルスによる感染症で、頬（ほお）に蝶の羽のような形の赤い斑点ができるのが特徴です。両頬がりんごのように赤くなることから、「りんご病」とも呼ばれます。

◆どんな病気？

・症状……頬に境界鮮明な赤い発疹が現れ、続いて手足に網目状・レース状・環状などと表現される発疹がみられます。これらの発疹は1週間程度で消えていきますが、なかには長引いたり、一度消えた発疹が再び出現することがあります。成人では関節痛、頭痛などを起こすことがあります。一度感染すると終生免疫が得られますが、免疫不全の人は持続感染を起こす場合があります。

- ・潜伏期間…4～15日程度
- ・感染経路…飛沫感染、接触感染

頬に発疹が出る7～10日前に、微熱やかぜ様症状がみられることが多く、この時期にウイルスの排泄量がもっとも多くなります（ウイルス血症）。発疹が現れたときには、ウイルスの排泄はほとんどなく、感染力はほぼなくなっています。

・流行期……一年中みられますが、流行が多い年の熊本市では秋から春にかけて症例数が増加する傾向にあります。

◆かかったらどうすればいいの？

- ・特別な治療法はなく、対症療法となりますが、ほとんどの場合、合併症を起こすことなく自然に回復します。
- ・注意すべきものとして、妊婦が初感染した場合に胎児の異常や流産が起こることがあります。

◆予防法は？

- ・予防のワクチンはありません。十分な手洗いとうがいを心がけましょう。
- ・紅斑の時期にはほとんど感染力はなく、またウイルス血症期のかぜ様症状は特徴的な症状ではないため、実際的な予防策がありません。妊娠している女性は、流行期にはかぜ症状のある人に近づかないようにしましょう。

症状が似てるので、昔は風しんと思われていたらしいよ。



期 間		平成30年 45週		平成30年 46週	
		11/5～11/11		11/12～11/18 (最新)	
疾患名 <small>(百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました)</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	➡	14	0.56	4	0.16
RSウイルス感染症	➡	9	0.56	2	0.13
咽頭結膜熱(プール熱)	➡	3	0.19	2	0.13
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 ⚠	➡	43	2.69	52	3.25
感染性胃腸炎 ⚠	➡	112	7.00	104	6.50
水痘(みずぼうそう)	➡	0	0.00	0	0.00
手足口病	➡	9	0.56	10	0.63
伝染性紅斑(りんご病)	➡	0	0.00	2	0.13
突発性発しん	➡	12	0.75	5	0.31
ヘルパンギーナ	➡	1	0.06	0	0.00
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	➡	2	0.13	0	0.00
急性出血性結膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)	➡	12	2.40	12	2.40
細菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	➡	2	0.40	0	0.00
マイコプラズマ肺炎	➡	1	0.20	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	➡	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	0	0.00	0	0.00